

# 千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1  
公益社団法人千葉県園芸協会  
連絡先 043(223)3005  
発行日 毎月1日  
令和6年2月号

果樹ニュース



## なしの火傷病と花粉確保対策について

千葉県農林水産部生産振興課  
園芸振興室 主査 鈴木隆洋

中国での「火傷病」発生により、国は令和5年8月30日をもって中国産なしの花粉等の輸入を停止しました。国内への病害侵入防止や花粉確保に向け、県では対策本部を設置し、中国産花粉の買上げ・廃棄や生産・技術対策の支援を進めています。

### 1. 中国における火傷病の発生と今後の対応

国内への侵入を警戒している梨の病害「火傷病」(かしょうびょう)が中国で発生したことを受け、中国からの火傷病菌の宿主植物(なし・りんご等の花粉など)の輸入が停止されました。火傷病は、細菌による植物の病気で、なしやりんごなどのバラ科植物に広く感染し、火にあぶられたように枯れます。本病は有効な防除方法がない上、感染すると周辺の健全な樹木も含めた伐採が必要になる等重大な損害を与えます。

万が一この病気が発生すると、自園だけでなく、産地の存続に関わる被害となるおそれがありますので、中国産花粉は使用せず密閉して保管していただきますようお願いいたします。また、中国産花粉の在庫は買上げ・廃棄を実施しますので、御協力をお願いします。



図1 「羊飼いの杖」症状



図2 新梢から漏れ出る細菌泥

※ 農研機構原図

### 2. 花粉確保に向けた支援状況

#### (1) 緊急対策本部の設置・生産対策支援

中国産なし花粉の輸入停止を受け、県では中国産花粉の使用自粛の徹底や授粉用花粉の確保など、なしの生産に万全を期すため、令和5年10月27日に「なし授粉用花粉確保等緊急対策本部」を設置しました。

対策本部は県農林水産部次長を本部長とし、県関係各課、JA全農ちば、(公社)千葉県園芸協会で

構成されており、花粉確保に必要な技術指導や支援、火傷病発生防止に当たることとしています。

また、各産地での取組や生産者個々の状況に応じた対策を進めるため、県農業事務所、農協、市町村等で構成される現地対策チームを農業事務所ごとに設置しています。

生産対策としては、花粉自家採取に必要な機器類の導入支援や授粉に必要なミツバチの確保等について関係機関と連携しながら進めているところです。

#### (2) 技術対策・労力確保支援

県では、なし花粉の自家採取に初めて取り組む生産者でも花粉採取の作業工程、所要時間、花粉の節約方法等がわかるように令和5年9月と11月に千葉県HPで技術資料を公開しました(図3)。

また、果樹園芸組合連合会なし部会と連携し、生産者を対象とした技術講習会を実施しています。

さらに、花粉採取に係る作業は開花期前後の短期間に実施する必要があることから、農業者総合支援センターと連携し、JAによる無料職業紹介事業、1日農業バイトアプリの紹介を行うなど、花粉採取時の労力確保を支援してまいります。



図3 技術資料「なしの授粉用花粉の確保について」(左)と「授粉用なし花粉採取マニュアル」(右)

QRコードから資料が読み取れます

## 熊谷知事の台湾訪問とプロモーションの実施

千葉県農林水産部流通販売課  
販売・輸出促進室 主査 實川貴博

令和5年11月、熊谷知事は、県内の農水産関係者や観光事業者、県議会議員の方々などとともに台湾を訪問しました。

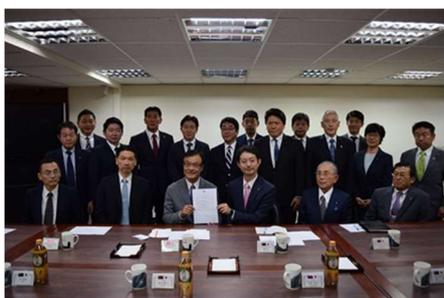
今回の訪問では、官民一体となって、輸入規制撤廃の要請活動や農林水産物の輸出促進などのプロモーション活動を行いました。

### 1. 台湾における輸入規制撤廃に向けた要請活動

台湾では、東日本大震災以降、本県を含む5県産（福島県、茨城県、栃木県、群馬県及び千葉県）の食品に対する輸入停止措置が講じられてきましたが、令和4年2月に、条件付き（放射性物質検査報告書等の添付）で輸出が可能となりました。しかし、依然として残る規制は、コストや時間がかかり事業者の負担となるだけでなく、鮮度が重要な品目については輸出が困難となっています。

このような中、知事は、令和5年11月17日に、農水産関係団体代表、県議会議員とともに、台湾の対日窓口機関である台湾日本関係協会を訪問し、蘇嘉全会長と会談しました。知事からは、県産農林水産物の安全性を訴えるとともに、規制措置が輸出の障害となっていることを説明し、輸入規制の早期撤廃を求める要請書を手渡しました。

これに対し蘇会長からは、「中央政府にしっかりと伝え、できるだけ早い問題解決に向けて頑張っていく」との前向きな発言がありました。



### 2. 県産農林水産物・輸出商談会の開催

また、台湾日本関係協会への要請活動の前日の16日には台北市の台北マリオットホテルにおいて、現地大手バイヤーとの会談、試食交流会及び県産農林水産物・食品輸出商談会を開催しました。

このうち現地大手バイヤーとの会談では農水産関係団体代表、県議会議員、成田市場関係者が同席し、日本食品輸入大手3社（商田實業有限公司、鼎三國際企業有限公司、JFC taipei 有限公司）の責任者と台湾への県産農林水産物・食品の輸出拡大に向けた意見交換を行いました。

意見交換の中では、バイヤー側から台湾での販路開拓に向けた様々な提案がなされるとともに、今後、台湾における千葉県産フェアの実施など更なる連携を進めることで合意しました。

試食交流会では、台湾側食品バイヤーに、梨、サツマイモ、米（粒すけ）、サバ、キンメダイ、干しアワビ、干ナマコをはじめとした県産農林水産物を用いた料理を提供し、豊富な県産農林水産物・食品の魅力をアピールしました。

その後に行われた県産農林水産物・食品輸出商談会では、千葉県から参加した事業者と台湾側食品バイヤーが積極的な商談を行いました。

商談会では、梨やサツマイモ、キンメダイをはじめとした様々な県産農林水産物・食品が出展され、その場で成約するものもあるなど、台湾側食品バイヤーから大変高い評価を得ました。

### 3. 今後の取組

今回の台湾訪問では、県産農林水産物の魅力を積極的に発信するとともに、台湾の現地バイヤーと日本のサプライヤーとの関係構築が図られました。今後、県では、今回関係を構築した事業者などと連携し、台湾での県産品フェアを開催することなどにより県産農林水産物・食品の輸出を更に促進してまいります。

## 青果物の販売促進の取組について

全農千葉県本部 園芸部 園芸販売課  
東京園芸販売センター長 長妻 誠

昨年5月に新型コロナウイルスは「2類」から「5類」に引き下げられ、徐々に店頭での試食販売を再開する店舗も増えてきています。このような中、継続的に開催している百貨店レストランでの特別メニューフェアの開催、また昨年実施し大好評であった(株)万代において千葉県フェア「千葉の旬菜お届け便」並びに意見交換会を実施し、千葉県産青果物の供給拡大に向けた取組を行いました。

### 1. 百貨店レストラン特別メニューフェアの実施

J A全農ちばは、柏高島屋・柏高島屋ステーションモールとタイアップし、生産者応援企画として千葉県産青果物の販売及びレストランでの特別メニューフェアを実施しました。

近年、生産コストの高騰が続き、生産者の厳しい現状を消費者に理解していただくため販促資材を活用し、愛情が詰まった千葉県産の農産物を消費者に買って・食べていただき、生産者を応援してほしいという願いを込めた売り場づくりと販売促進活動を行いました。

また、レストランにて特別メニューフェア「千葉の野菜とお米を食べて農家さんを応援しよう！」では、千葉県産農産物を取り入れ考案した特別メニューを各参加店舗にて提供され、多くの消費者の方々に千葉県産の美味しい農産物を堪能していただきました。

### 2. 千葉県フェア「千葉の旬菜お届け便」の開催

令和5年11月25日(土)、26日(日)に、J A全農ちばは、J A全農青果センター(株)協力のもと、近畿エリアで展開する大手スーパーマーケット(株)万代にて千葉県フェア「千葉の旬菜お届け便」を開催しました。毎年秋冬野菜の出荷が本格化するこの時期に大規模なフェアを開催していますが、その中でも、昨年開催した(株)万代との千葉県フェアが大好評で、更なる販路拡大と認知度向上を目的に開催しました。

今回のフェアは、昨年よりも参加店舗が10店舗多い25店舗での開催となりました。各店舗の商品棚には千葉県を代表する秋冬野菜を陳列し、また、新たにJ A全農ちばで作成した販促資材「食べてみて!

千葉県産」を活用し、インパクトのある売り場作りをしました。加えて昨年実施できなかった試食も再開し、「人参の味噌きんぴら」「きゃべつのポトフ」を提供し、実際に千葉県の野菜を食べていただき、購入されるお客様が多数見られました。

またフェア開催当日には、J A、千葉県、千葉県園芸協会の代表者が集結し、2班に分かれ店舗を巡回し、売り場の状況把握や情報の共有を図りました。店舗巡回終了後には意見交換会を開催し、今後の産地間連携などの取組に向けた意見をいただきました。引き続き、千葉県の美味しい野菜を近畿圏の皆様にもっと「知って、買って、食べて」貰えるようにフェアを継続し、販路拡大と顧客確保に努めてまいります。

### 3. おわりに

J A全農ちばは、今後も、J A、市場、千葉県、千葉県園芸協会をはじめとした関係機関と連携し、様々な販促活動を展開し、千葉県産農産物の更なる認知度向上とPRに繋がる取組を進めてまいります。引き続き、産地の皆様の御理解と御協力をお願い致します。



棚万代における千葉県フェア

## 新規就農者交流会を開催しました ～新規就農者の定着をサポート～

公益社団法人千葉県園芸協会  
産地振興部 副主幹 塩崎桂司

千葉県・千葉県農業会議・千葉県園芸協会は農業の担い手対策の一環として、県内の新規就農者・予定者を対象とした交流会を10月3日に開催しました。先輩就農者を講師に招くセミナーと情報提供、及び5名の先輩就農者を助言者に迎えた分科会で交流を深めました。

### 1. はじめに

千葉県の農業を維持・発展させていくために、担い手の確保・育成は年々その重要度が高まっています。当協会では千葉県及び関係機関と連携し、千葉県の農業に興味を持っていただいた方の就農気運を促すために、全国を対象とした「新・農業人フェア」への出展や「千葉県農林水産就業相談会」の企画などを、また、就農を予定している方・就農した方の定着をサポートするために「新規就農者交流会」などの行事を企画しています。10月3日に新規就農者交流会を開催したのでその概要をお伝えします。

### 2. 新規就農者交流会

#### (1) 開催の背景・目的

県内の新規就農者数は過去5年の調査の平均で約350人です。その内訳は新規自営(親元)3割、新規参入者3割、雇用就農4割でここ数年は毎年ほぼ同じ傾向です。就農者のなかには、短期間で退職したり農業をやめてしまう人も少なくありません。交流会は県内就農者の交流を深め、人脈形成の一助となり、就農が定着することを目的に毎年開催しています。

#### (2) 開催概要

交流会は、発展を続けている先輩就農者を講師に招くセミナーと情報提供、及び県内の先輩就農者を

助言者に迎えた分科会の構成で実施しました。過去3年はオンラインで開催してきましたが、本年度は3年ぶりの集合開催としたところ、参加者が増え、参加者からは顔を見ながら会話したこと、知り合いが増えたことなど好評でした。

セミナーでは講師から定着のポイントや発展に至る人脈づくりなどの話を聞きました。現在は経営拡大に伴ってやりたいことが増え、新たな夢が膨らんでいるとのこと。新規就農者へは「目的・ビジョンを持つこと。相談できる人を見つけること。失敗しながら実践していくこと。」などのメッセージが送られました。

分科会は県内各地で活躍する5名の先輩就農者を助言者として迎え、各々の就農事例を参考に、支援機関も参加して意見交換会を進めました。生産の効率化や販売方法など助言者のアドバイスは参加者にも共感を得ているようでした。

3年ぶりの集合開催となった本年度は就農者49名、支援機関19名、スタッフ含め計86名で盛大に開催されました。



講演会(加藤講師)



分科会

## ジャンボタニシ防除技術の開発

千葉県立農業大学校  
農学科 准教授 清水敏夫

農業大学校では、ジャンボタニシ（和名：スクミリングガイ）の防除トラップを開発し、減農薬栽培に取り組んでいます。トラップは低酸素濃度で駆除できるように製作しました。開発したトラップは令和5年2月15日に特許を取得しています。

### 1. はじめに

ジャンボタニシは、田植え後の稲を食害し、水稻農家にとって収量を減らす厄介な存在となっています。外来生物であるジャンボタニシは稲だけではなく、日本在来の貴重な植物まで食べ尽くし、さらに体内には有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる可能性もあり、「素手で触ることは絶対に控えた方がよい」とされています。また、日本の耕地面積の半分以上を占める水田ほ場には日本在来の貴重な動植物が生息しており、ジャンボタニシの駆除に使用する農薬により多くの生き物が犠牲になっていることも事実です。農業の営みとともに共生してきた動植物が生息できる環境保全型農業を実践するために、今までにない防除トラップの開発に取り組みました。

### 2. 防除トラップ（ジャンタニトラップ）について

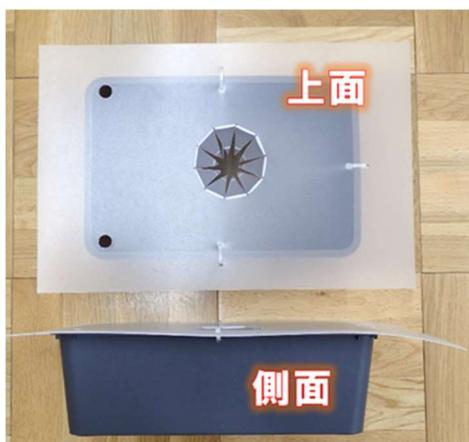
防除トラップの材料はすべて100円ショップで購入して製作しました。防除トラップの上面となるポリプロピレンのPPシート（335×500×1mm）の中央部に放射状に切れ込みを入れ、返しをついた穴を開け、収納BOX（37×25×11.5cm）と組み合わせました。PPシートと収納BOXに小さな穴を開けて結束バンドで固定しました。上面の穴には返しが付いており、トラップ内に入ると出られない

構造になっています。設置方法はトラップの入口と水平になるように土中に埋め込みます。

誘引餌として使用するドッグフードは、ジャンボタニシの貝殻の形成に必要なカルシウムが豊富に含まれており、稲よりも好んで食べます。また、ドッグフードに含まれる動物性油脂が水面に広がることで、そのにおいを感じ取ったジャンボタニシが誘引されます。10アールあたりトラップを6個設置したところ、約2か月間で948頭の捕獲に成功しています。ドッグフードは、微生物の働きで分解され、トラップ内が酸欠状態となり、ジャンボタニシが駆除されます。なお、稲への悪影響を与えない魚やゲンゴロウなどの生き物がトラップ内に入った場合は、2cm以下の穴を上面に2箇所開けてあり、脱出が可能となっています。他の生き物に配慮したトラップとなります。

### 3. 今後に向けて

防除トラップは、商品名ジャンタニトラップとして企業と連携し、販売を計画しています。さらに減農薬により栽培されたお米については、慣行栽培と比較し高い価格での販売を実現できています。今後も防除トラップの普及を図り、環境保全型農業の実践を進め、地域農業の支援のために活動を継続していきます。



防除トラップ（ジャンタニトラップ）



水田ほ場に設置したトラップ

## 「黒アヒージョ」料理コンテスト・フェアの開催について

千葉県は農林水産業が盛んで、新鮮で美味しい食材がたくさんあります。そこで、若い世代に、料理を通じて千葉県の魅力を発信できないかと考え、県内の多彩な農林水産物を使用できるアヒージョに、隠し味として千葉県にゆかりのある調味料の「醤油」を加え、「黒アヒージョ」として提案していくこととしました。

「黒アヒージョ」をさらに多くの皆様楽しんでいただけるよう、昨年度に引き続き、人気アニメとコラボした限定グッズ等がもらえる「黒アヒージョフェア 2024」を開催しています。令和6年3月17日まで、県内40店舗以上で各地域のご当地の「黒アヒージョ」をお楽しみいただけますので、この機会に是非召し上がってみてください。

また、並行して「黒アヒージョコンテスト 2024」を実施しており、令和6年3月7日にマザー牧場で実食審査会が行われます。今年度は、提供される「黒アヒージョ」の価格帯に応じて、「プレミアム部門」と「カジュアル部門」の2部門に分かれており、シェフ自慢の黒アヒージョが披露されます。是非この機会に黒アヒージョをお楽しみください。

黒アヒージョ  
Kuro Ajillo



詳しくはこちら



(問合せ先)

千葉県農林水産部 流通販売課  
TEL: 043-223-3085

## “房総みかん美味コンテスト”開催結果

11月25日(土)・26日(日)に「房総みかん美味コンテスト」を開催しました。「温州みかん」「ゆず」「レモン」の64点の出品がありました。1日目は千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所において専門家による厳正な審査を行い、特別賞14点、奨励賞7点を決定しました。2日目は消費宣伝として、イオンスタイル木更津において特別賞の展示と出品物の販売を行いました。

コンテストに出品された選りすぐりの「温州みかん」は、糖度が高く品質も良いものでした。「ゆず」及び「レモン」についても、外観に優れ、消費者の皆様にも房総のかんきつを知っていただく良い機会となりました。

| 賞名              | 所属組合名  | 氏名   | 品目    |
|-----------------|--------|------|-------|
| 千葉県知事賞          | 三芳柑橘部会 | 三平尚登 | 温州みかん |
| 千葉県農林総合研究センター長賞 | 平群柑橘組合 | 川名昌行 | 温州みかん |
| 安房農業事務所長賞       | 千倉柑橘組合 | 安田義昭 | レモン   |



審査の様子



特別賞展示

(問合せ先)

千葉県農林水産部 生産振興課  
TEL: 043-223-2872